

令和5年7月

魚津市定例記者会見



日時：令和5年6月30日(金) 午後1時30分～午後1時50分

場所：市役所 第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、読売新聞、NICE-TV、市町村新聞

市当局出席者：市長、企画部次長(情報広報課長)

【市長からの発表事項】

1. 魚津市本江地域交流センター 竣工式・内覧会、オープニングセレモニー
(地域協働課)

魚津市本江地域交流センター(愛称：クローバー)が竣工する運びとなった。竣工式終了後には、施設内を見学いただく時間も設けており取材をお願いしたい。国交省の補助金を利用して建設したものであるため、富山県の土木部長もお呼びしている。8月1日には供用開始することとなっており、オープニングセレモニーを開催する。

2. うおづウェルビーイングウィークの実施
(地域協働課)

「じゃんとこい魚津まつり」の開催日を含む、7月30日(日)から8月6日(日)の約一週間を「うおづウェルビーイングウィーク」として、富山県内外のテレワーカー等を対象に、トライアルオフィス necco やミラージュハウスのコワーキングスペース等の施設でテレワークをしていただきながら、余暇の時間を地域貢献活動や地域資源を活用した体験プログラムに参加していただく予定としている。たてもん祭りでは組み立てなど準備から片付けまで一連のものをサポートいただく内容等を用意しており、施設利用無料などの特典もある。8月にはトークセッションも実施する。

3. 魚津市市政バス事業「親子でバスたび」
(情報広報課)

市民のみなさまに魚津市政についてより知っていただくため、また、改めて魚津の魅力を感じていただくために、公共施設等をめぐる市政バス事業を実施する。市の学芸員や職員が詳しく説明することとしており、コースは2コース。どちらのコースにも、最後に「市長とミニトーク」の時間を設けている。

4. 農林水産業 体験・応援プロジェクト「親子体験会」

(農林水産課)

魚津の農林水産業を親子で学ぶ「親子体験会」を、7つのコースで1年間にわたり行っており今回は、「やさい(白ねぎ)」のコースで体験会、また、夏休み特別バージョンとして、海から山までまるごと体験できる「夏の特別体験会」を開催する。

5. MiraPay (ミラペイ) 第2弾ポイント還元キャンペーン

(商工観光課)

4月から6月にかけて対象日を限定したMiraPayポイント還元キャンペーンを実施したところ、さらなるMiraPayの普及促進と市内地域経済の活性化を図るため、対象日を毎週土日に拡大し、キャンペーンを発展的に継続するもの。予算は約400万円であり、予算に達し次第終了となる。

6. うおづで輝く☆女性キャリアアップセミナー

(商工観光課)

女性活躍社会の構築が求められている中で、職場における管理職やリーダーとしての必要なスキルや知識を身に着けるなど、市内で働く女性のキャリアアップを促進し、女性管理職などの「キャリア形成の上で手本となる人物の育成を目的としたセミナーの開催を行う。市内事業所にて勤務する女性を対象としている。全部で3回のプログラムを予定している。

7. 簡単! からだが整うごはん教室

(健康センター)

からだが整うためにどのように食事を摂ったらよいか食事の選び方が食べてわかることを目的とした「簡単! からだが整うごはん教室」を実施する。朝ごはんを楽しく食べながら、個人に合わせた食事を提案したい。7月19日に3回実施する。

8. 元気とやまかがやきウォーク in魚津夏の陣

(健康センター)

富山県が5月から実施している、県公式スマートフォンアプリ「元気とやまかがやきウォーク」で、7月1日(土)より「魚津市ミッション」を開催する。魚津市内の3か所でスマホのGPSを起動してミッションを達成すると、アプリ内で50ポイント進呈され、さらに、各ミッションを達成すると『ダブルチャンス特典』に応募いただける。多くの皆さんにご参加いただいてポイントを獲得していただきたい。

【質疑応答の内容】

○「うおづウェルビーイングウィーク」について

《記者からの質問》

今年初めての開催になるのか。また、この事業の実施によりどのような効果を目指しているのか。

《回答》（市長）

今年初めての開催となる。関係人口創出・拡大事業として実施するものであり、地域文化の担い手が少なくなる中で、魚津の応援団・ファンをどう作っていくかを狙いとしている。トークセッションでは、前野まどかさんをお招きするが、この方は幸福学などの活動を展開しておられ、これからの時代をどうやって幸福な生き方を追求していけるのか、などといったことを考えていただける機会となると思う。

○「魚津市政バス」について

《記者からの質問》

初めての開催か。市長とのミニトークはそのような内容か。また対象を高校生以下の親子としたのはなぜか。

《回答》（市長）

20年ほど前にも実施していた。ミニトークは、特にテーマなどの設定はせず、市民の皆様と直接お話しする機会も少ないので、様々なご意見をお聞きしたいと考えている。対象については、お子様はもちろんであるが、一緒に来られた親世代の方々の様々なご意見をお聞きできる機会にしたい。